

「連合組織拡大プラン2030」

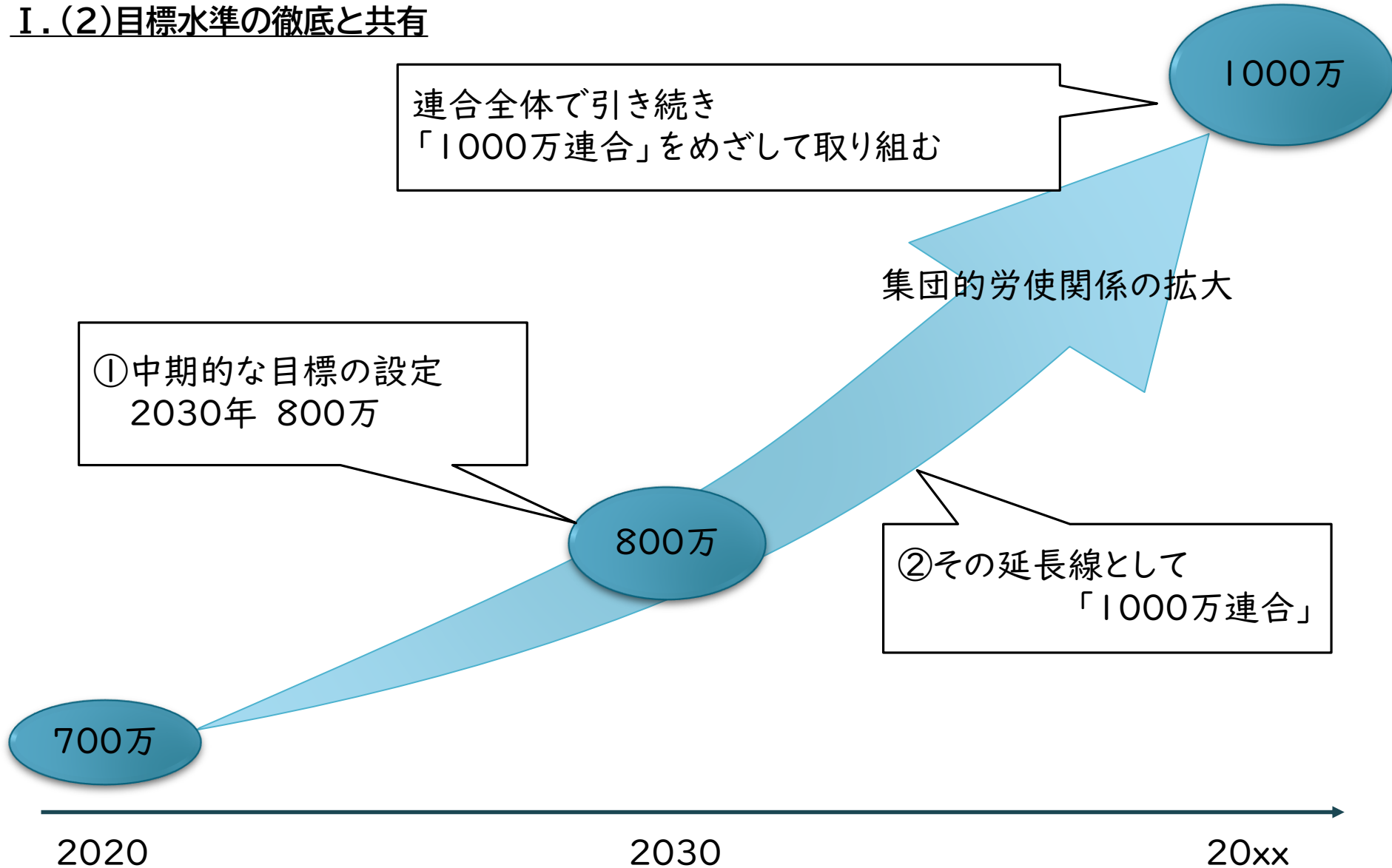
I.(1)連合組織拡大プラン2030(プラン2030)の意味

- ①2030年までの10年間に徹底的に拡大にこだわる
 - ・ 拡大実績の上積み(現状約15万/年の拡大)
 - ・ 組合員の減少に歯止めをかける

- ②構成組織・地方連合会自らの目標を設定し、その必達に向けて全力で取り組む

- ③人財含めた体制の強化(オルガナイザーの確保・育成)を重点的に取り組む

I.(2)目標水準の徹底と共有



【重点分野-1】「連合組織拡大プラン2030」について

I.(2)目標水準の徹底と共有

◆ 中期的に2030年までに800万を目標として設定

◆ 足もとの5年間でその達成を確実なものとしていく

700万

800万

6,750,015

7,013,701

拡大実績(平均)14.8万人/年

162,152

133,823

増加登録人員(平均)3.3万人/年

2012

2015

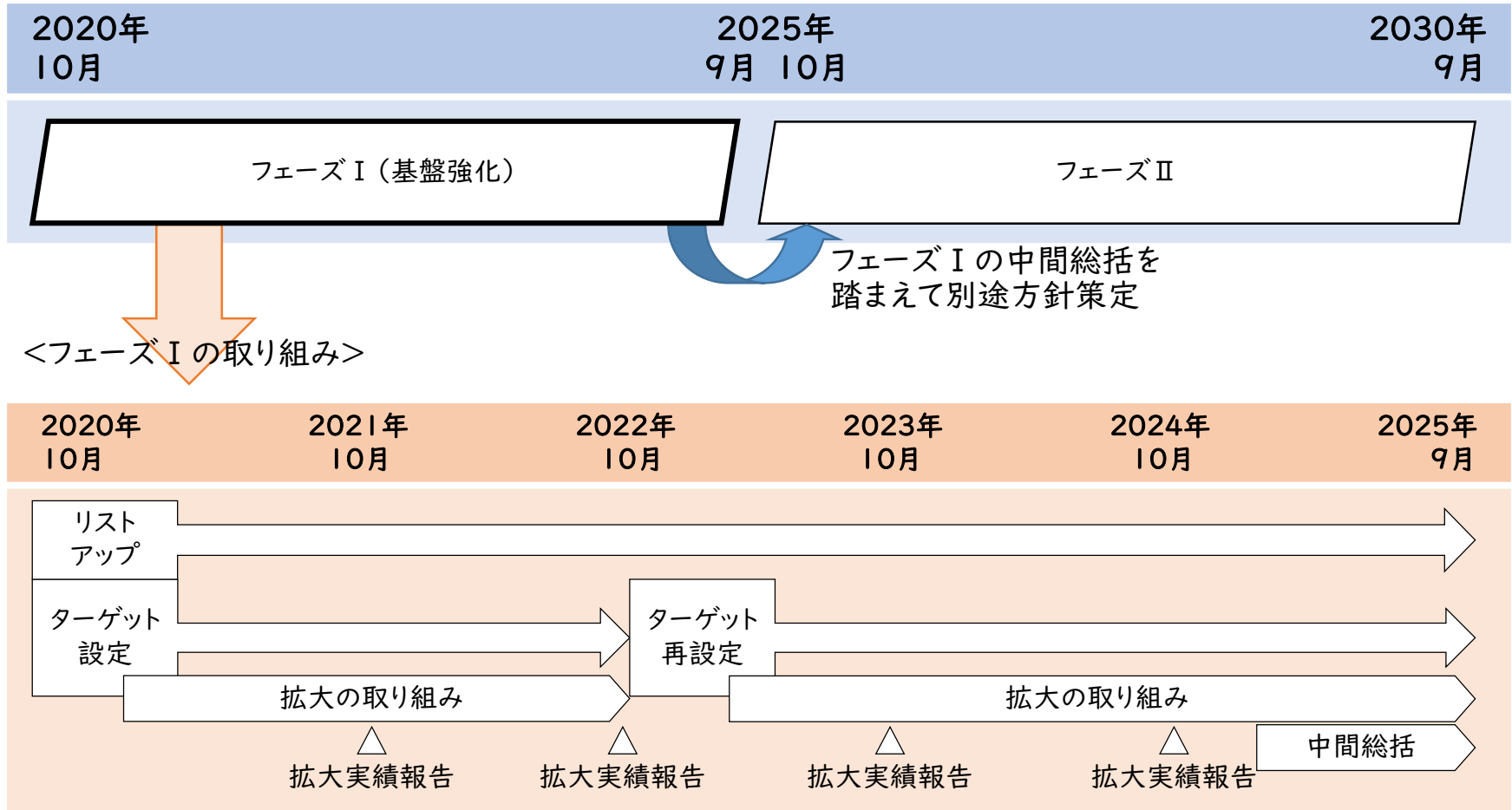
2020

2025

2030

【重点分野－1】「連合組織拡大プラン2030」について

I.(3)期間設定と狙い



II. 背景と狙い ～ 3領域の運動パッケージによる新たな運動の前進

2020年10月以降の計画については、連合ビジョン「まもる・つなぐ・創り出す」の3つの側面をふまえ、連合全体でめざしていく姿とともに、下記を基本に策定していく。

集団的な 労使関係で 「まもる」

- ・ ナショナルセンターの責務として、集団的労使関係の拡大の追求
- ・ 連合本部、構成組織、地方連合会・地域協議会の明確な役割分担と実践。

働く仲間を 新たな仕組みで 「つなぐ」

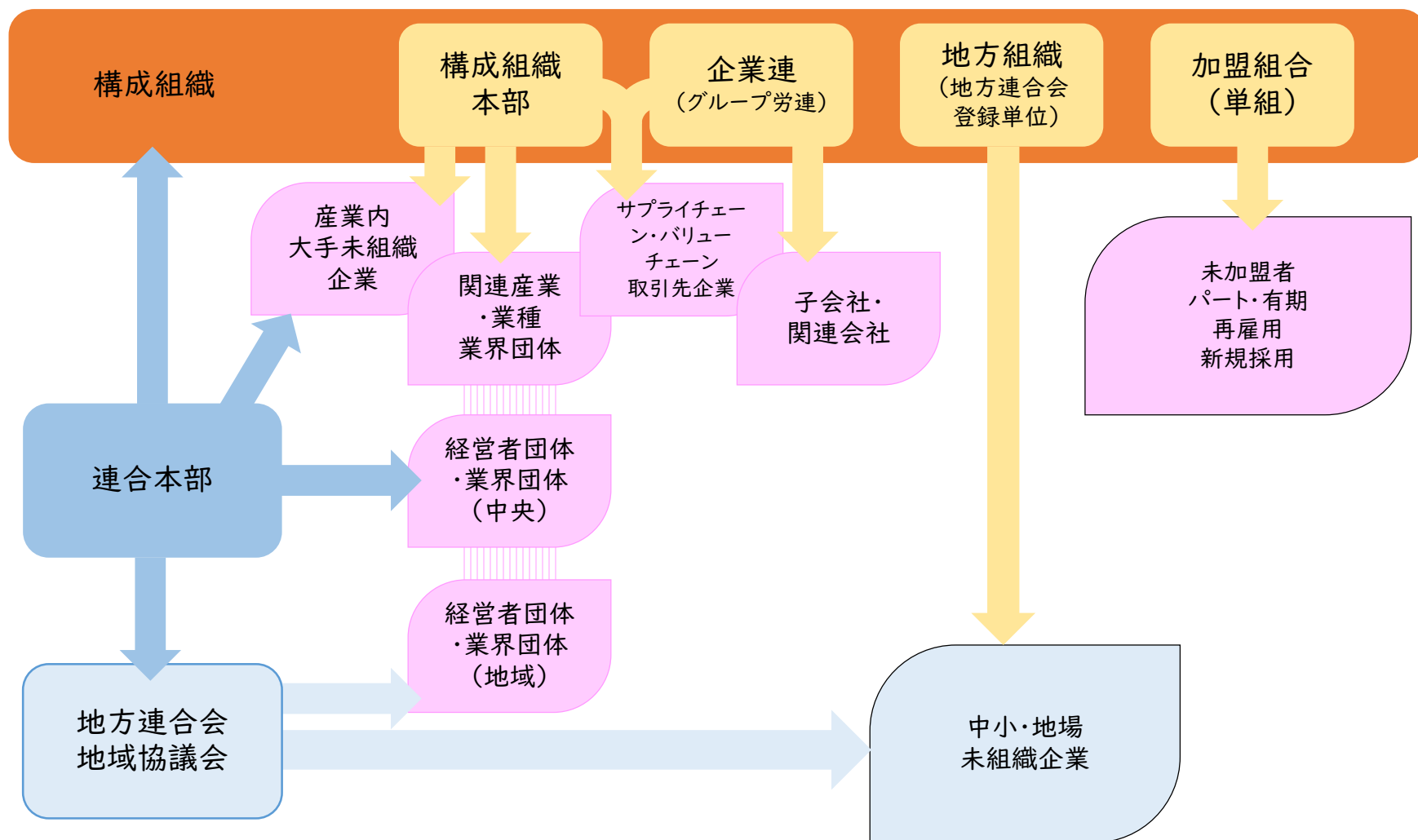
- ・ 緩やかに連合とつながる「ネットワーク会員（仮称）」の創設
- ・ 専用サイトの立上げ含む、多様な雇用・就労形態の人たちとのつながり充実
- ・ 「地域ゼネラル連合（仮称）」の創設
- ・ 特別参加組織などの構成組織移行と中小地場企業の組織化等の受け皿作り

新たな組織の 活力を 「創り出す」

- ・ 労働組合の役割をより社会・職場に浸透させるための組織力の強化
- ・ 組織力の強化に向けた人材・体制等の基盤強化
- ・ 「まもる」「つなぐ」領域との相乗効果の発揮（組織の活力を創出）
- ・ 新たな仲間など共に社会に広がりのある運動を推進

Ⅲ. **連合本部、構成組織、地方連合会の役割分担と実践**

(1) 連合全体の力を集め推進する「**プラン2030**」とは



Ⅲ. 連合本部、構成組織、地方連合会の役割分担と実践

(2) 連合本部、構成組織、地方連合会の人的な基盤強化について

